



あなたのまちのコミュニティ活動情報誌

コミュニティ しずおか

2023

7月

No.171



Topics トピックス

花のリレーを田ヶ池公園で構想中

田ヶ池公園保全会（掛川市）

▼5月下旬の朝7:45。睦三会館前に草刈り機を持参した男性7人が集まった。掛川市中の睦3区（毛森、田ヶ谷、西之谷）の住民有志の皆さんだ。この日は、3時間半の草刈りを行った。

▼地域の憩いの場にしようと令和元年に発足（会員17人、平均年齢73歳）。竹で鬱蒼としていた池周辺が年々明るくなり、訪れる人が劇的に増えた。「泳いだり魚採ったり…子どもん頃の遊び場が再び集う場になって嬉しいねえ」と代表。一年中花木が楽しめるよう花のリレーを構想している。

※ご近所の皆さん、一緒に活動しませんか？

◇代表：杉本光繁さん（問合せ・090-1723-2726）

【情報提供・安藤ミエ】

地域訪問記 …………… P02

地域の人々、子どもたちに伝えたい！（静岡市葵区）

地域訪問記 …… P06

伝統の火祭りで育む地域と子どもたち（藤枝市）



のりづき・りえ

コミック



1833年に建て替えられた郷倉は、正面間口6間(10.8m) 奥行3間(5.4m)、千石米どころの地域の歴史を伝えている

地域の人々、子どもたちに伝えたい！ コロナ禍で復活した、歴史的建造物「瀬名の郷倉と番屋」

静岡市葵区

瀬名^{こうぐら}郷倉保存会

白い漆喰の大河ドラマに出てきそうな古い大きな土蔵。一步中に入ると、高い天井の開放的な空間に歴史を感じる農機具や日用品の品々約500点が所せましと並べられています。一体どうやって使うの？見ただけでは何なのか分からないモノだらけ。民俗資料展示施設として近世の民具等を収倉している「瀬名の郷倉と番屋」。この郷倉を伝える活動をしている皆様にお話を伺いました。

現存する最大級の郷倉

静岡市中心部から北東に位置する西奈学区の瀬名一帯は、江戸時代には広大な田畑が広がる、それは、それは美味しいお米の一大産地でした。年貢米や非常救済米を貯倉する郷倉は、全国各地に建てられるも大半は取り壊されましたが、地域の先人たちの努力により、奇跡

的に良好な状態で現存。昭和47年に付属番屋とともに市の文化財に指定されました。

現在は西奈学区自治会連合会が所有し、維持管理を自治会に所属する瀬名郷倉保存会が行い、毎月第2土曜日の午前中に公開しています。

ターニングポイントはコロナ禍

平成8年、有志による瀬名郷倉保存会が発足するも、10年前からは高齢化等により休止状態となっていました。そんな中、新型コロナウイルス感染症が世界に猛威を振るい、野球の審判員として活躍していた時間を持て余した事務局長の伊久美さんが、民具等の整理に取り掛かることに。

元々歴史や古道具が大好きだった伊久美さんは、雑然と置かれ埃だらけの収倉品を見やすく展示し、来場者が「楽しい!面白い!」と思うような資料作りに励みます。そして保存会に長年協力を続ける寺井さんも、伊久美さんの姿に触発され、ホームページと広報誌『ごうぐら瓦版』の制作を始めました。瓦版は町内全戸(3300戸)へ配布され、展示品にまつわるエピソードや保存会の近況が地域の人々へ届けられています。

学校との関係づくり

子どもたちに地元の歴史を伝えることも重要な活動の一つ。「子どもたちの関心をどう引き出すか」を懸命に考えながら試行錯誤。その努力と熱意が先生方にも伝わり、地元の小・中学生の見学と出前授業が続いています。最初は関心が薄くても「子どもたちや見学者の興味のツボ」を押えた解説を聞くと、思わず展示品を手に取りたくなるマジックにかかります。展示品は自由に手に取り動かすことができ、「小中学生は100の説明より、1の体験」とメンバーは語ります。また、瀬名にある常葉大学造形学部の協力で、アニメーションで紹介する話が進んでいるそうです。若者たちの発信力にも期待を膨らませています。

郷倉保存会メンバーが考える未来

元連合会会長の三浦会長と同じく役員だった奥水副会長のお二人は、地域の理解・協力と保存会を繋ぐキー



100の説明より1の体験。触って持って時代を感じてもらう



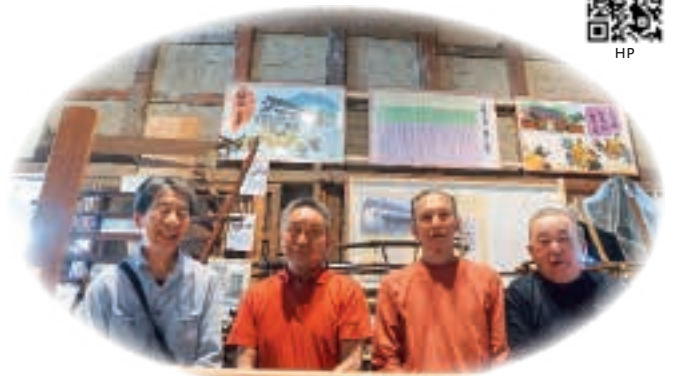
郷倉と並ぶ番屋 蔵番が寝泊まりし米を守っていた

パーソンです。現在、市の助成金や自治会から活動費をいただいているが、修繕費用の捻出は3年計画など長期的な資金繰りを考え保全を行っています。

「地元の人に来てもらいたい。郷倉の価値を知り、誇りを持つ人が増えることは、末永い保存活動に繋がります」と三浦会長。「今後、継続的に維持管理できる仕組みづくりを進めたい」と奥水副会長。

インタビューを終えて

文化財と言えば少しまじめで硬いイメージがありましたが、そのイメージを覆されました。取材後に火縄銃を持ったり、陣羽織を羽織ったり、機織り機で機織り体験したり、まさに「楽しい!面白い!」瀬名郷倉。皆さんが「どうやったら興味を持ってもらえるか」「楽しんでももらえるか」「価値を理解してもらえるのか」をすごく考えられているのが伝わってきました。楽しい時間をありがとうございました。



左から寺井さん、奥水さん、三浦さん、伊久美さん

◇会長: 三浦春夫さん(問合せ・090-3388-5655)

【情報提供・瀧 昌光】



レポート: 矢野さちこ 編集委員



まちからむらから



南伊豆町

いつまでも楽しく地域貢献

めろん
女論の会



青野川沿いの清掃活動後にパチリッ

▼特産品である温泉メロンに名前を掛けた「女論の会」は、女性たちが議論をする集まりではなく、町内のイベントのボランティアや定期的な清掃活動等の地域貢献をしている団体である。町が「女性の意見が聞きたい」と高齢者サロンや防災等の地域活動していた女性に声を掛けた事がきっかけとなり平成28年に発足した。

▼毎年、町を訪れる杉並区の小学生の移動教室で体験学習を担当。貝やシーグラスを浜辺で集めフォトフレームづくりの講師をしたりアカウミガメの保護活動の様子を手作り紙芝居にしたり、SDGsを意識しながら南伊豆町の魅力を伝えている。

▼会員は、平均69歳の南伊豆町に住むお母さんたち9人。各々仕事や別団体と掛け持ちしながら合間を縫って精力的に活動に励んでいる。

今後は、清掃活動に力を入れていくそうで「南伊豆町全体を清掃で回れたら」と清水代表。定期的に話し合いを持ち、会員同士のコミュニケーションを深め楽しく活動している。

◇代表：清水和子さん（問合せ・0558-62-1879）

伊東市

ご存じですか？「ホームスタート」

NPO法人いとう子育て
ネットワーク・ゆう

▼「ホームスタート」とは、産前・産後に不安を持つ女性や未就学児が1人である家庭に研修を受けたボランティアが訪問し、母親や友達のように接しながら話を聞き、育児や家事を一緒に行う家庭訪問型子育て支援のこと。県内では2か所で行われており、その一つNPO法人いとう子育てネットワーク・ゆうでは、子育て経験者（40代～70代）のボランティア34人のうち現在は16人が週1回、2時間程度定期的に家庭を訪問している。

▼平成24年、市の研修を受けた元幼保の先生や子ども好きの有志10人が市から委託を受けて始まった事業だが、ボランティア養成講座、洋服やおもちゃの交換会、お散歩会、就学前の子どもがいる移住者向けカフェ等の事業を展開し、毎週市内のどこかでふれあい活動をしている。

▼「なんであんなに寂しかったのかな」と訪問支援利用者のママ。ボランティアと一緒に時間を過ごすことで母親が心の安定を取り戻して育児に前向きに取り組んでもらえるよう今後も支援していく。

◇代表：勝又裕司さん（問合せ・0557-55-7667）

【情報提供・佐藤みつ子】



小室山で開催した「おやさロン」の1コマ

伊豆の国市

地域の資源にひかりを灯す

江川邸竹灯り
実行委員会



美味しい昼食も楽しみな竹林整備

▼昨年11月、韮山地区にある国指定重要文化財江川邸で、放置竹林で制作した竹灯りイベントが6年ぶりに復活し、2日間で約2,000人が訪れ開催を喜んだ。主催した江川邸竹灯り実行委員会は、市民有志20人からなる団体。イベントを復活させるにあたり、既存のNPO団体・高校生・市民ボランティア等との協働による持続可能な形に変えて新しくスタートした。

▼イベント終了後、毎月1回第4土曜日に竹林整備ワークショップを開催。中・高校生や家族連れが参加し、竹の伐採、筍掘り、竹炭づくり、竹灯籠づくり等を楽しみながら放置竹林の課題や価値について学ぶ機会を作った。将来、より深刻な問題になるであろう放置竹林を、新たな観光・文化・教育的な資源として活かすために、様々な人財に得意分野で参画してもらい、竹林整備と副産物（間伐竹）を活用した新しい取り組みを計画している。

※7/22の竹林整備ワークショップの参加募集中です！

◇代表：河野真人さん（問合せ・090-6335-4333（事務局 柴田））

【情報提供・柴田三智子】



吉田町

人気企画クワガタ・カブトムシ教室

住吉わっぱくらぶ



クワガタをプレゼントされ喜び子どもたち

▼吉田町の住吉地区で7月に開催する「クワガタ・カブトムシ教室」は、命の尊さについて学ぶ機会として毎年開催し今年で11回目となる。

地区在住の生き物博士に講師をお願いし、子どもたちにクイズ方式で生態や飼育方法を教えたり、腕に這わせたり、最後に講師が捕まえたクワガタ、カブトムシを数匹ずつプレゼントし終了となる。夏休みに入る子どもたちにはぴったりな企画だ。

▼一番の苦労は、クワガタやカブトムシが採取できる時期に合わせて実施すること。約200匹用意するため、採取だけでは間に合わず会員の知り合いに譲ってもらうこともあるそう。

▼主催する住吉わっぱくらぶは、平成21年に発足し、ボランティアを中心に自治会、PTAの協力を得ながら子どもたちのために活動している。「大人になっても声を掛けてくれ嬉しいですよ」と近藤会長。この活動により世代間交流が生まれ、人と人をつなぐ役割を果たしている。

◇代表：近藤直久さん（問合せ・0548-33-2152（生涯学習課））

【情報提供・市川頼子】

磐田市

共に社会を創る仲間を育てる場づくり

NPO法人キャリア教育
研究所 ドリームゲート

▼子どもたちに「どこに行っても通用する力」「失敗しても立ち上がる力」「やり抜く力」が身に付くようにと、平成25年の設立以来、子どもをリアルな社会や多様な大人と繋ぐ活動を行っている。

▼主な内容は、市内の店舗や企業での職場体験や取材、ポスター制作、発表を通じて仕事や働く人の魅力を発見する「お仕事体験わくわくワーク」、4～6年生を対象とした長期休みの学び場「わくわく寺子屋」、現場でプロの大人に学ぶ「自分よのなか塾」。参加する子どもが、他校・異年齢で関わり、仲間を増やすことと、受け身にならぬよう、どのプログラムも自らの学びを発表する場を設けて、自分ごととなるよう工夫している。

▼受け入れる大人の側にも「気づき」があり「襟を正す機会になる」と感想があるとのこと。お仕事体験をきっかけに親子でお店にお買い物などの波及効果もある。これらを通して、大人も子どもも学びあい、自分と地域に愛着を持ち、共に社会を創る仲間を増やしていく。

◇代表：山浦こずえさん（問合せ・080-9118-5794） 【情報提供・安部詠司】



自らの学びを発表する子どもたち

地域活動情報

この詳細はホームページでご覧になれます（アドレス <http://www.sizcom.jp>）



No.	市 町	活 動 名	主 催 者	趣旨・目的	情報提供
1	下田市	開国下田紅茶で下田のにぎわいを	NPO下田のにぎわい社中	地域のにぎわいの創出	山田豊秋
2	裾野市	まちなかライブ	ひかりクリエイション	地域の音楽文化を盛り上げ、商店街を活気づけたい！ 9/24開催まちなかライブ！	志田忠弘
3	富士宮市	福祉家事支援 ごみ出し支援事業が始まりました！	富士宮市青木平区自治会	20年後も「きれいな住宅地、住んでみたい地区」であり続ける事を理想に掲げ、高齢者に優しい町づくりの活動を展開	武井信夫
4	藤枝市 岡部	旅姿で「岡部宿次郎長会」“参上”	岡部宿次郎長会	地域の賑わいづくりや福祉活動等にボランティアとして旅姿で参画	梅原 仁
5	島田市 伊太	昭和ギター誕生物語	島田市昭和ギター愛好会	地域の高齢者の慰労、会員自身の生きがいづくり	池田 弘
6	牧之原市	やすらぎまつりでコロナ禍でも子どもたちに笑顔になってもらいたい！	やすらぎ祭り実行委員会	子どもにわくわくとドキドキを届けたい。子どもたちをたくさん笑顔にしたい。	武田てるみ
7	菊川市	馬と住みやすいまちづくりを目指して	NPO法人うまのあと	馬とふれあいながらの情操教育を推進し、地域の人たちの暮らしを豊かにすることを目的とする。	鈴木貴司
8	森町	「灯りをともし」	一般社団法人モリマチリノベーションmore	空き家など街並みの資源をリノベーションで用途や機能、価値を変化させたい。	山田勝恵

地域訪問記

団体の継続に着目し紹介します。

小学生のとうろんの歌の合唱

堀之内町内会のとうろん



伝統の火祭りで育む地域と子どもたち

稲葉のとうろん実行委員会（藤枝市）

藤枝駅から車で約15分の所に、859世帯が暮らすのどかな中山間地域の稲葉地区があります。「稲葉のとうろん」はこの地区に伝わるお盆の伝統行事。この火祭りを伝承する実行委員会を訪ねました。

とうろんとは

とうろんとは「灯籠」が訛ったものと言われています。「稲葉のとうろん」は、高さ10メートルほどの竹竿の先端に麦わらや花火が仕込まれた竹籠をつけ、この竹籠をめがけて「火の玉」を投げ入れると、籠の中の爆竹や麦わらの燃える音や火の粉が舞い上がる勇壮な火祭りです。稲葉地区では、瀬戸川の河川敷に8基のとうろんが立ち、全国的にも大きな規模だと言われています。

運営方法

今回の取材でとうろんの運営方法がユニークだと思いました。とうろんの制作は技術を受け継ぐ「保存会」が行い、祭りの実行は2つの自治会と保存会からなる「実行委員会」という形でやっているからです。

その昔は稲葉地区にある町内ごとに行ってましたが、時代の移り変わりにより担い手が少なくなり、平成7年8月を最後に途絶えます。その後、運動会やとうろんの代わりに始まった盆踊りなど地域全体で行う行事も時とともに無くなっていきました。ところが「何もないのは寂しい」との声が上がり、平成22年8月に有志の方たちの熱意により自治会が主催する稲葉地区全体の祭りとして復活。その2年後にとうろん制作の技術を担っていく団体が必要だと保存会が発足します。

継承の意味

実行委員会では地域の子どもたちとうろんを継承してほしい思いがあります。毎年、稲葉小の4年生は、総合学習の一環で稲葉地区交流センターでとうろんについて学びます。火祭りに参加できるのは4年生からで、伝統行事に加わることで得難い経験を積んでもらいます。

「子どもにとって地域の祭典に参加することは故郷の原風景として一生忘れない経験となります」と保存会副会長の山田さんは語ります。

今後の展開は

「各町内会でとうろんの形が違うのでコンテストをやったら面白いのでは」と副会長の堀井さん。「コロナ禍の3年間制作されずゼロからのスタートみたいなもの。今年開催できればきっとこの先も続いていくと思っています」と保存会事務局長の橋本さん。今年は8月6日の18時スタート。因みに、制作は当日の午前中に保存会メンバー41人が中心となり、協力者と共に8基作ってしまうそうです。

最後に

取材を終えて駅まで送っていただいた時、すれ違った学校帰りの小学生たちを見る阿井会長の暖かい眼差しが印象的でした。少子高齢や地域のつながりの希薄化により地域行事が廃れていく中、故郷の原風景が刻まれて育った大人がいたからこそとうろんは復活したのではないのでしょうか。幅広い世代が参加し、地域一体でとうろんを行うことは、顔の見えるコミュニティづくりの一步になります。とうろんを通してのコミュニティづくりと地域で育む子どもたちへの愛情を感じた取材でした。



左から堀井さん、橋本さん、阿井さん

◇会長：阿井正人さん（問合せ・090-3389-5931）

【情報提供・手島克訓】

レポート：峰野 勇 編集委員

コミュニティしずおかの立役者!情報通信員を紹介しま〜す(前編)

この冊子は、県内各地で委嘱のお願いをした情報通信員に地域活動の情報を提供していただいております、本年度は25市町31人の皆さんに活躍していただきます。10月号へ続く



下田市

山田豊秋 さん

情報発信する事は、活動を見つめ直し、改善し前に進むための活動



南伊豆町

清水和子 さん

女論の会に参加。「自分達に出来る事」をモットーにまだまだ挑戦中!!



伊東市

佐藤みつ子 さん

アンテナを高く、広く



三島市

山本 希 さん

「地域の未来をつくる人をつくる」多くの人と関わり合いながら活動しています



沼津市南部

甲田悦隆 さん

幾つになっても趣味人。それが情報の源。仕事と両立頑張ります



沼津市北部

臼井隆司 さん

わからないなりにやっていきたいと思っています。よろしくお願いします!



伊豆の国市

柴田美智子 さん

「地域は家族!」地域の情報を繋げ住みたいまちづくりに取り組んでいます



小山町

秋田未来 さん

出来たてのご飯とクラシッククラガーが好き



御殿場市

勝又長生 さん

コミュニティづくりの楽しさを後継者に託す年としたい



裾野市

志田忠弘 さん

今年も裾野市の素敵な活動を目いっぱい紹介します!



富士市

斎藤立巳 さん

今、油絵の大作を描いています。地域の芸術分野の向上に努めます



富士宮市

武井信夫 さん

「率先垂範」人任せにせず、できることは自分でやるよう心がけています



静岡市清水区

戸塚恵美子 さん

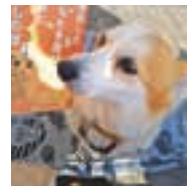
三味線で歌謡曲を練習中。色気がないので小唄は苦手です



静岡市葵区

瀧 昌光 さん

今年もフルマラソンで完全燃焼!一緒に走りましょう



焼津市

秋田いずみ さん

看板犬たちと共にペット防災の啓発活動中



藤枝市

手島克訓 さん

藤枝の中山間地域の魅力ある活動を応援しています



常務のつ・ぶ・や・き

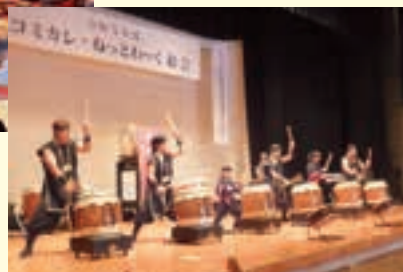
世界を混乱に陥れた新型コロナも収束に向かっていくようにだが、静岡県では、今後もいつ発生するか分からない感染症に備えて「ふじのくに感染症管理センター」を三島市谷田の県総合健康センター内に設置した。

この健康センターは、平成8年5月、健康科学に立脚した健康づくりの拠点として、疫学調査による健康データの収集・分析や研究などを行うため箱根西麓に整備されたが、私は、完成前の2年間、県庁の健康対策課で施設整備を担当し、毎週、現場事務所に通ったものだった。

オープンから27年、その機能が運動に偏在化し存続を危ぶむ声も聞かれる中、生みの親としては、今後も県民の健やかな暮らしを守るために感染症の知見を蓄積し、もしもの時の司令塔として大きな使命を担って欲しいと強く願わずにはいられない。



令和5年度コミカレ・ねっとわーく総会開催



6月3日(土)吉田町学習ホールで、当協議会が主催する講座「コミカレ」の修了生の組織「コミカレ・ねっとわーく」の総会が開催されました。前日の台風2号の影響により交通状態がマヒしましたが103人が参加。東・中・西部支部ごと総会も行われました。鉄道の復旧が間に合わず、残念ながら午後の講演は中止になりましたが、遠州吉田小山城太鼓保存会の皆さんに、台風を蹴散らすような力強い演奏を披露していただき終了いたしました。

コミニ一家

のりづき・りゅう



地域活動に関心のある方へ!

募集します

※お問い合わせ、お申し込みは当協議会へ

★出張コミカレ&コミカレ開催します!



コミュニティづくりの大切さ、地域での話し合いの進め方などコミュニティ活動を進める上で必要なスキルや知識を学ぶ講座です。静岡市の会場まで足を運ぶのは大変! そんな皆様に向けて、本年度は森町と熱海市で出張コミカレを開催します。

地域で活動されている方や地域活動に関心のある方はぜひ御参加ください。なお、詳細につきましては、随時 HP 等でご案内します。

R5出張コミカレ in 中遠

予定日時	10:00~12:00	12:50~15:45	会場
7月15日(土)	講義 「今、そして次の一歩を考える」 講師:川口良子 氏(合同会社デザインアープ代表社員)	事例発表 ★清水岡地区堂林自治会(IT活動) ★やらざあ美花下当間(環境整備)	森町文化会館 ↓申し込みフォーム
7月22日(土)	講義 「持続可能な地域づくり」 講師:渡村マイ 氏((一社) SACLABO代表理事)	演習 ファシリテーション入門	

R5年コミュニティカレッジ ※講義内容については後日確定します。

9/9(土)	鼎談、講座	会場 静岡市内
9/23(土)	講座 ワークショップ	
10月中	現地訪問研修(県内で先進的な活動をされている団体を訪問します)	
11/18(土)	ワークショップ	

本年度の編集委員を紹介します

- ・鈴木朝子 氏 (本会推進専門委員)
- ・大橋弘樹 氏 (県広報協会常任理事兼事務局長)
- ・峰野 勇 氏 (コミカレ修了生・袋井市)
- ・矢野さちこ 氏 (コミカレ修了生・磐田市)
- ・県地域振興課職員
- ・白井 満 氏 (県コミュニティづくり推進協議会常務理事)



静岡県コミュニティづくり推進協議会

〒420-0856 静岡市葵区駿府町1-70 総合社会福祉会館3階
TEL) 054-251-3585
FAX) 054-250-8681
URL) <http://www.sizcom.jp>
E-mail) sizucom0829@po.across.or.jp



サマージャンボ

7億円

1等前後賞合わせて7億円
1等5億円、前後賞各1億円

サマージャンボ

3千万円

1等前後賞合わせて3,000万円
1等2,000万円、前後賞各500万円



PCやスマホで
ネット購入!

宝くじ公式サイト

<https://www.takarakuji-official.jp/>

この宝くじの収益金は、
市町村の明るく住みよい
まちづくりに使われます。

7月4日(火)同時発売

発売期間/7月4日(火)~8月4日(金) 抽せん日/8月18日(金)

各1枚
300円

2023年市町村振興宝くじ
一般財団法人 全国市町村振興協会